

令和6年度 下野市こども発達支援センターこばと園 運営委員会ほか 議事録

日 時 令和6年9月17日(火) 午前10時00分から午前11時30分

場 所 きらら館 研修室

出席者 倉根委員、小貫委員、大家委員、阿久津委員、栗山委員、秋山委員、大塚委員
大山委員

欠席者 1名 大垣第三者委員

事務局 社会福祉課 川嶋課長

こばと園 小林園長、那須野、菊地、間中、福田

欠席者 社会福祉課 北野

傍聴人 1名

審議内容 (原則として発言委員名を明記し、発言の要点のみを記載している)

第1部 運営委員会 午前10時00分から午前11時00分

1. 開会

こばと園 那須野

欠席報告 大垣第三者委員

2. 委任状交付 代表 倉根委員

3. 課長あいさつ 社会福祉課 川嶋課長

- ・令和6年度第三回下野市定例会、教育福祉常任委員会にてこばと園の現地視察が行われた。
- ・令和6年4月執行の改正児童福祉法に基づき、児童発達支援センターは地域の障がい児支援の中核的役割を担う機関となり、地域の各機関との連携や支援体制の構築に関わってくる。
- ・令和6年4月に健康福祉部内に開設した子育て世代の総合窓口「こども家庭センターふわり」、令和5年10月に社会福祉課に開設した複合的な相談窓口「福祉まると相談窓口」の紹介。

4. 自己紹介

5. 下野市こども発達支援センターこばと園運営委員会について 資料1-1～1-3

6. 委員長、副委員長の互選

委員長：下野市民生委員児童委員協議会副会長

国分寺地区民生委員児童委員協議会会長 小貫委員

副委員長：こばと園年長児保護者 阿久津委員

7. 委員長、副委員長あいさつ

小貫委員長

- ・こばと園は平成14年4月に開設、4町の共同運営として開始した。現在は下野市単独運営である。開設に携わったものとして、いとおしく懐かしく思う。開設してから22年、スタッフ、施設、事業内容において立派に自立し、運営されている。

8. 議事 議事録署名人に大家委員、栗山委員を指名し了承

(1)こばと園の構成と役割 資料 1-4.1-5 に基づき報告

- 1.組織図
- 2.体制
- 3.障害児支援の基本理念
- 4.児童発達支援の役割

(2)令和 5 年度事業報告 資料 2 に基づき報告

- 1.令和 5 年度在籍について
- 2.令和 5 年度療育について
- 3.令和 5 年度年間行事及び専門療育実施内容
- 4.その他の活動

▶小貫委員長

その他の活動にあった親子相互交流療法(PCIT)について、自治医科大学小児科医師倉根先生に補足説明をお願いしたい。また、専門療育のところで福田公認心理師にも補足の説明をお願いしたい。

▶こばと園嘱託医：倉根委員

子どもの問題行動は、子ども自身の問題だけではなく環境を調整していかなければならない。親子関係を良くしていくことが結果として子どもの問題行動の改善に繋がると、最近の研究で明らかになってきている。親子相互交流療法(PCIT)は、医師が親子で遊ぶ様子をしっかりと観察しながら、リアルタイムに親から子への声掛けを少しずつ修正しながら行う治療法である。基本的には1回1時間を毎週実施、平均的には3か月から半年間行う。治療後には子どもの問題行動が減少する結果が出ている。

▶こばと園公認心理師：福田

専門療育の一つとして、就学に向けてや、子どもの状態像を理解するために発達検査を実施している。また、グループ療育の様子を観察し、保育士と心理士の視点、いろいろな側面からの視点で子どもの発達や特性を捉えている。親子療育では保護者と一緒に子どもの様子を見ながら、その場で声のかけ方や関わり方を保護者に助言ができる。すぐに保護者が実践できることで、子どもの反応や変化の気付き等にもつながっており、保護者支援として良い機会となっている。また、家族支援も大切に考えており、「お子さんが安心して過ごせる」というところでは、保護者の困り感や悩みを丁寧に伺うことで、安心した気持ちで子どもに関われるように支援していきたいと思っている。

(3)令和 5 年度事業運営実績(決算) 資料 3 に基づき報告

▶下野市おもちゃの図書館会長：大家委員

自身も障がい者の母である。我が子の時には市内にこばと園のような支援センターがなかったので宇都宮市まで行っていた。当時、自治医科大学の先生方が親の心を慰めるように寄り添ってくれたり、言語療法の先生方に支えられてきた現実がある。家族支援やその他様々な支援があるこ

とで、親としてつぶれないでやっていくことができた。現在は、こういったことを下野市の中で運営できることはよいことだと思う。

▶こばと園年長児保護者代表：栗山委員

毎年療育のクラス編成が変わる。簡単でも良いので初回時に自己紹介や話す機会を設けてもらおうと保護者同士のつながりができ、気軽に話すことができるようになるのではと思っている。

▶こばと園園長：小林

貴重なご意見ありがとうございます。私たちの機関が、保護者の方の支えになることが願いであり、これからも精進していきたい。保護者の方同士、気兼ねなくおしゃべりできる場になるような雰囲気になるように参考にしていきたい。今後の療育で、保護者支援になるようやっていきたい。

▶こばと園嘱託医：倉根委員

嘱託医としてこばと園に来ている。時間をとって相談に来てくれた保護者が、少しでも親子関係が良くなったり、気持ち的に楽になったり、見通しを立ててこの先こうなっていくといいな等、保護者に満足していただけるよう目指している。今後も皆さまの力を借りながら継続して連携していきたい。

▶こばと園園長：小林

倉根先生には医療相談で大変お世話になっている。先生には見立てをしっかりとってもらい、これからどのように医療につなげていったらよいか保護者や職員にもフィードバックしてもらえるので、本当にありがたい。今後ともよろしく願いいたします。

(4)令和6年度事業計画 資料4に基づき報告

- 1.令和6年度在籍について
- 2.令和6年度療育について
- 3.令和6年度年間行事及び専門療育実施内容
- 4.その他の活動予定

(5)令和6年度事業運営(予算) 資料5に基づき報告

9.その他 障がい児通所支援利用の流れについて 参考資料に基づき報告

保護者アンケート結果報告

▶下野市立古山小学校：秋山校長

こばと園を卒園した子どもが入学してきているが、皆頑張っている。もっと、こばと園職員と情報交換や連携を図っていくことが望ましいと改めて感じた。オーダーメイドのこばと園の支援が学校でも続くよう頑張っていきたい。

▶県南健康福祉センター健康支援課：大塚課長

ほかの市町から、療育のほかに保護者支援についての相談が多い。ペアレントトレーニングをはじめとして、どの様に支援していったらよいかと相談を受けている。

子どもの発達を見守るうえで、保護者支援が一番大切な支援の取り組みであり、こばと園が保護者の相談に寄り添っているところがわかった。また、下野市は二次健診でのスクリーニ

ングがしっかり機能している。そういった点も含め、市町との県の母子保健の連携として、この委員会での情報を本庁でも共有していきたい。

▶下野市こども家庭センター：大山センター長

乳幼児健診や二次健診など、今後とも引き続きこぼと園と連携していきたい。次年度から5歳児健康相談は集団健診になる予定である。

▶下野市おもちゃの図書館会長：大家委員

障がい児の親として、様々な思いをしてきた。兄弟、姉妹がいることで、親としての姿勢を見せていかなければいけない。障がいを持った子ども育てていかなければならない。子育てに終わりはなく、こぼと園から小学校などステージが変わるごとに子どもの支援、親の支援が必要である。支援してもらっても親の挫折はあるし、うまくいったり挫折したりその繰り返し。我が子より先に死ねないと思っている。障がい児の親は、専門職からのさり気ない声掛けに救われることがあるので、今後とも後につながる障がい児のために支援をお願いしたい。

令和6年度 下野市こども発達支援センターこぼと園 障がい者虐待防止委員会

第2部 虐待防止委員会 午前11時00分から午前11時30分

1.開会

2.議事

(1) 権利擁護について 資料1-1～1-3

(2) 虐待防止委員会の設置について 資料2

1) こぼと園虐待防止委員会の構成

委員長：園長

委員：運営委員会委員、第三者委員、児童発達支援管理責任者

2) 虐待防止委員会の役割

- ・虐待防止のため計画づくり
- ・虐待防止のチェックとモニタリング
- ・虐待(不適切な対応事例)発生後の検証と再発防止の検討

3) 研修の実施状況

4) 苦情解決のための取り組みについて

5) 報告事項

令和5年度 こぼと園における虐待発生件数…0件

こぼと園における苦情相談件数…0件

3.閉会

議事録署名人

